

かお・人インタビュー

2016年11月30日(水)

大野 太三
会長に聞く

一般社団法人
福岡市土木建設協力会



清元節で鍛えた張りのある声、明るく親しみが持てる人柄の新会長さん。土木建設協力会は、福岡市内の土木建設業者108社で構成、インフラ整備を通じて安全・安心な市民生活を確保し、文化的で豊かな街づくりに関わるとともに、「防災活動」や「献血活動」、「募金活動」、「飲酒運転撲滅運動」等の地域貢献活動にも積極的に参画、特に防災活動においては会員社の「防災士」資格取得(101人)に取り組んでおり、防災士グループを結成し、福岡市や地域自治会等と連携しながら、地域住民の防災意識の高揚啓発に努めている。第16代目の大野太三会長さんに公共工事予算の確保や技術力の向上、担い手の育成など協会活動について、話を聞いた。

1. 第16代目の会長就任の感想と抱負について

昨年度まで理事を8年間(うち4年間は副会長)務めてきましたが、業務量も含めて団体長の責任の重大さを改めて痛感しています。

地場の土木建設業団体としての存在意義を明確にするとともに、それをさらに高めていきたいと考えています。

2. 貴団体の設立趣旨、会員構成などの紹介を

太平洋戦争で焦土と化した福岡の地の戦災復興を力強く、かつ早急に成し遂げる必要があったことなどから、地元土木建設業者が結束して団体を立ち上げたもので、現在、創立67年目を迎えます。福岡市に本

店を設置し、福岡市の指名競争入札参加資格「一般土木」を有する土木建設業者であることを入会資格とし、現在、会員数108社で構成しています。

3. 地場建設業団体としての役割や地域貢献活動



防災訓練

地域貢献活動については、①「防災活動Ⅰ」：地震、台風、豪雨時における「待機」及び「緊急出動」、②「防災活動Ⅱ」：福岡市が実施する市民や職員を対象とした「水防・防災訓練」における水防工法に関する指導、③「防災活動Ⅲ」：昨年、会員（社員）に「防災士」の資格を取得させ、現在、101名で、防災士グループを形成するとともに、順次、福岡市や地域自治会等と連携して「地域住民の防災意識の高揚や啓発」に努めています。④「募金活動」：会員が集う会合（会員総会、新春賀詞交歓会、忘年会など）での「募金活動」や「チャリティーゴルフ大会」の開催、⑤「飲酒運転撲滅運動」：「街頭キャンペーン」の企画・実施、「市民大会」への参加など、⑥「献血運動」：毎年11月と12月の2カ月間実施しています。

土木建設業は、地域経済の発展に欠かすことのできない道路・河川・水道・下水道・橋梁・トンネルなどのインフラ整備の担い手であり、人々が文化的で、かつ、安全・安心な生活を営むために、そして経済活動を行うために欠かすことのできない“ものづくり”を行い、このことを通じて雇用の確保にも貢献しています。

都市として成熟期に入った福岡市では、インフラ整備においてはその勢いに蔭りが見えますが、発展期に整備されてきたインフラの更新時期が来ており、請負者側においてもきちんと新技術・工法などの習得に努める必要があります、団体としてもその支援を行っています。



献血活動

4. 先の福岡市博多駅前の陥没事故での協力会の支援協力は、

福岡市から協力要請があり、当協力会としても福岡市や施工業者、関係業界の皆さんと一体となって早期復旧作業に取り組みましたが、行政及び業界あげての

取組みで、7日間の短い期間内に復旧することが出来ました。市民の安全・安心の確保という観点から協力会として貢献できたことをうれしく思います。

5. 土木建設団体としての担い手（技術者）の確保・育成について

求人しても人が集まらないのが実態で、県内の大半の工業高校で「土木科」という名称がなくなっており、生徒数も少ないのが現状です。現場などでの技術者の高齢化も顕著であり、業界の大きな課題でもあります。

このため、会員に対し、各種研修機関が実施している「講習会」の開催案内を行うとともに、会員の土木施工技術の向上を図るために、毎年、技術セミナーを企画・開催しています。

6. 貴団体の現状と課題、今後の見通しについて



協力会の事業費としては、ここ数年は年間3,000万円程度で安定的に推移してきましたが、平成27年度は前述のとおり、会員に防災士の資格を取得させるなど「新たな防災活動」を開始したことから、決算額は約4,000万円となっています。本年度も防災士の活動に要する費用のほか、熊本地震に対する義援金や会員による支援活動経費

等が発生しているため、昨年度並みの決算額が見込まれています。

福岡市の建設投資額については、ここ数年は横ばい傾向で推移していますが、福岡市が発注する本年度「一般土木工事」の契約状況は前年度並みで推移しているものの、実感としては減少傾向に転じた感があります。

7. 福岡市の地場建設業団体として発注行政に望むこと

一昨年の「担い手三法」の改正、さらには昨年の「発注関係事務運用指針」の施行に基づく施策を適

切に実施していただきたい。特に「工事発注の平準化」については、工事量（予算）の確保とともに、

早期確立が必要だと考えています。

8. 会長の趣味・特技などは



好きなゴルフは、協力会が主催して行う「チャリティーゴルフ大会」や各地区毎の会員コンペで親

睦を深め合っています。また、仲間同士でやるマージャンも楽しみの一つです。福岡の財界人の薦めで始めた清元は10年以上の経験があり、年に1回(6月)の発表会で披露していますが、毎年1ヶ月前からそのための準備をして、発表会

に臨みます。発表会が終わるとそれまでの緊張が解けて“ホット”しますね。モットーは、「嘘を言わない、裏切らない」。



プロフィール

昭和29年、長崎県生まれ（子供の頃に福岡市に転居）

昭和55年に日本大学生産工学部土木学科を卒業後、同年に丸三工業(株)に入社

平成7年に代表取締役役に就任